

各位

全3ページ

登録速報(2022-193)

2022年 8月 29日

クミアイ化学工業株式会社

企画普及部普及課

## 登 録 速 報

下記の通り、注意事項変更届けを提出しましたので、ご連絡します。

提出日：2022年8月26日

(注意事項は届けを提出した段階で、登録変更となります)

### 記

#### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第21378号

名 称：トップガンGT1キロ粒剤51

#### 2. 変更を生じた年月日

令和 4年 8月 26日

#### 3. 変更を生じた事項及び変更の内容

農薬登録申請書第8項「使用上の注意事項」に、1)として以下の記載を追加し、以降を繰り下げ、別紙【変更後】のとおりとする。

#### 【追加】

1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

#### 4. 変更の理由

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の対象化学物質が見直され(令和3年10月20日公布)、本剤に使用している物質が新たに法の対象となり、注意事項の追加が必要となったため。

## 別紙

### 8. 使用上の注意事項

#### 【変更後】

#### 1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発定期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 3) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 5) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）。
  - ②軟弱苗を移植した水田。
  - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 7) 直播水稲に使用する場合は以下に注意すること。
  - ①発芽直後の稲に対して薬害が生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布すること。
  - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
  - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- 8) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予測される場合は、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 9) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 10) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 11) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 12) 本剤は移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- 13) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注

意すること。

- 1 4) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上